

## ● ブックトークシナリオ

【テーマ】 戦争  
【対象】 小学校5・6年生  
【所要時間】 29分

### シナリオの記載方法について

- ・動作は□で囲ってあります。
- ・表示したページ番号は、ここで使用した本によります。版が違う場合は、確認してください。
- ・本を朗読する部分は、【 】で囲った太字になっています。
- ・本と本をつなぐ言葉は二重下線を引いてあります。

### 【紹介する本】

	書名	著者名	出版社	出版年
1	ママとマハ ～パレスチナに生きる ふたり～	高橋美香／文・写真	かもがわ出版	2023
2	ある日、戦争がはじまった ～12歳のウクライナ人少女 イエバの日記～	イエバ・スカリエツカ／著 神原里枝／訳	小学館クリエ イティブ	2023
3	これから戦場に向かいます	山本美香／写真と文	ポプラ社	2016
4	シリアからきたバレリーナ	キャサリン・ブルートン／作 尾崎愛子／訳 平澤朋子／絵	偕成社	2022
5	光にむかって ～サーロー節子ノーベル 平和賞のスピーチ～	サーロー節子／述 くさばよしみ／編 やまなかももこ／絵	汐文社	2022

### 【シナリオ】

#### ●導入

今から「戦争」というテーマでブックトーク（本の紹介）をします。

皆さんもニュースで知っているように、今、世界各地で戦争や紛争が起きています。今回紹介する本を読むと、戦争について、特に、そこに生きる人々の暮らしをより深く知ることができます。

#### 1 『ママとマハ ～パレスチナに生きるふたり～』

**表紙を見せ、女性（バスマ）を指さす**

戦争が起きている地域の一つに、中東のパレスチナ自治区があります。パレスチナ自治区では、長い間、争いが絶えません。パレスチナ自治区に住む人々が登場する『ママとマハ』という本を紹介します。赤ちゃんを抱っこしている女性の名前は、バスマです。バスマが住んでいるのは

**表紙の見返し（裏）の地図を見せ、ヨルダン川西岸地区、次にガザ地区、最後にイスラエルを指さす**

パレスチナ自治区です。パレスチナ自治区は「ヨルダン川西岸地区」と「ガザ地区」の二つがあり、バスマはヨルダン川西岸地区に住んでいます。パレスチナ自治区の隣には、イスラエルという国があります。

**表紙を見せ、最初からp.6 12行目まで読み聞かせ** 【『ママとマハ ～パレスチナに生きるふたり～』わたしの名前はバスマ。（中略）長男ハミースは、頭を撃たれて重傷を負った。】

最初から途中まで読んでみます。

**表紙を見せる**

バスマの住むパレスチナ自治区と、イスラエルは、土地をめぐる争っていることが分かりました。  
バスマの暮らしや、パレスチナ自治区で何が起きているか、イスラエルがなぜ攻撃をするのか、に  
興味を持った人は、この本の続きを読んだり、図書館で新聞記事を調べてみてください。

## 2『ある日、戦争がはじまった ～12歳のウクライナ人少女イエバの日記～』

土地をめぐる争いの他にも、何かがきっかけで、もし戦争が起きたら！？戦争で私たちの暮らしは  
いったいどう変わるのでしょうか？毎日、ご飯を食べたり、学校に通うことができるのでしょうか？  
ゲームをしたり、動画を見て遊ぶことはできるのでしょうか？

### 表紙を見せる

ウクライナ、第二の都市、ハルキウで、おばあちゃんと一緒に暮らしている 12 歳の少女イエバが書いた日記『ある日、戦争がはじまった』を読んでみます。

**p.23 1行目～11行目を読む** 【1日目 その日の明け方は、いつもと何も変わりはありません。  
(中略) ロケット弾が飛んできて、ものすごい勢いで爆発した。心臓が、こおりついたような感じがした。】

### p.26 1～18行目を読む

イエバはスマホで学校のチャットを見てみました。すると、こんなやりとりがありました。【「音、聞こえたよね？」(中略)「ねえ、みんな。外に出てみたんだけど、こげくさいよ」】

戦争が始まって2日目、イエバとおばあちゃんは、おばあちゃんの友達インナさんの家に逃げました。爆撃は続きます。

**p.66 1行目～2行目を読む** 【午後0時00分：衝撃的な知らせが届いた。(中略)キッチンにミサイルがうちこまれたって。】

### p.67の写真を指さし、写真の説明文を読む

これは、壁に穴が開いたアパートの写真です。【自宅アパートが、ミサイル攻撃で崩壊。胸がつぶれそう。】とイエバのコメントが書かれています。

### p.72 6行目～8行目を読む

戦争が始まって7日目。【今朝、砲撃があった。朝6時には、インターネット回線が遮断された。空襲で人々は衝動買いに走り、お店の食料品の棚は空っぽだ。】

イエバとおばあちゃんは、運よく赤十字ボランティアの車に乗せてもらい、ハルキウを脱出。ドニプロのインナさんの親戚の家に行きました。

### p.80 7行目～8行目を読む

戦争が始まって8日目。イエバとおばあちゃんは、電車でウクライナ西部に逃げようと考え、駅に行きました。その場面を読んでみます。【駅に到着した。構内に入って(中略)「警報発令！空襲です。避難してください。」】

### 表紙を見せる

イエバとおばあちゃんは、安全な場所に逃げることはできるでしょうか。イエバの日記『ある日、戦争がはじまった』を読んで確かめてください。

## 3『これから戦場に向かいます』

### 表紙を見せ、女性(山本)を指さす

パレスチナ自治区と、ウクライナのことがわかる本を見てきました。もう一冊、戦争で何が起きるか写真で伝える絵本『これから戦場に向かいます』を紹介します。著者の山本美香さんは、山梨県都留市で育ち、ジャーナリストになった方です。途中まで読んでみます。

**最初からp.17 1行目まで読み聞かせ** 【『これから戦場に向かいます』 わたしは、世界の戦場取材してテレビや新聞、雑誌で報道するジャーナリストです。(中略) アデム君(13歳)は右目と両足を失った。】

戦争が起きると、建物や町が破壊されるだけでなく、子どもでもケガをしたり、命を失うことがあるとわかりました。

### p.22 1行目～26 6行目まで読み聞かせ

では、山本さんは戦争についてどう考えているのでしょうか？続きを読みます。 【「戦争は、どちら側が正当か(中略) だからこそ、戦争をはじめてはいけません。】

**p.44 写真を指さし、p.45 1～5 行目まで読み聞かせ**

最後のページには、山本さんが戦場を取材する理由も書かれています。【戦場で何が起きているのかを伝えることで、時間はかかるかもしれないが、いつの日か、何かが変わるかもしれない。そう信じて紛争地を歩いている。さあ、現場に到着だ。】

**表紙を見せる**

取材を続けていた山本さんは、2012年、シリアで銃撃され亡くなりました。彼女の平和への思いがつまった本『これから戦場に向かいます』を、後で、もう一度読んでみてください。

**4 『シリアからきたバレリーナ』**

**表紙を見せ、女の子（アーヤ）を指さす**

バレエを踊っている女の子の名前は、アーヤ。11歳です。シリアで生まれ、内戦が激しくなったため、家族と一緒にイギリスへ逃げました。今は難民支援センターで、英語がしゃべれないママを助け、難民の申請手続きをしています。ある日、小さな弟ムーサを抱っこして、手続きの順番を待っているアーヤの耳に、音楽が聞こえてきました。その場面を読みます。

**p.9 2行目～5行目を読む** 【アーヤは耳をすませた。（中略）「一、二…ポール・ド・ブラ…腕を上げて…三、四…背すじをまっすぐ…そう！…五、六…のびて…」】

**p.19 イラストを指さし、p.18 13行目～p.20 6行目を読む**

シリアでバレエを習い、踊るのが大好きなアーヤは、音楽が気になり、建物の2階に行ってみました。そっと覗いてみると、こんな風景が見えました。【つま先立ちで窓からのそくと（中略）たぶん、この子がドッティだ】このドッティという少女は、アーヤに気が付くと、にこっと笑いかけてくれました。

次の日、アーヤはまたバレエ教室を見に行き、ドッティと話しましたが、教室には入れてもらえませんでした。難民申請の手続きも進まず、アーヤは疲れて怒り出し、戦争のつらい体験の記憶も甦りました。そのシーンを読みます。

**p.51 2行目～10行目を読み、イラスト（アーヤが踊る場面）を指さす** 【爆弾が落ちてくる。（中略）アーヤは、またピルエットをまわったー 一、二、三回。】

いつの間にかアーヤは踊り出していました。このアーヤの踊りを見ていた人がいます。バレエ教室の先生です。先生はアーヤに

**p.54 14行目を読む** 【「よかったら、二階でやっている、わたしのバレエ教室に参加してみない？」とレッスンに誘ってくれました。レッスン代は無料。ドッティがレオタードやバレエソックスをプレゼントしてくれ、二人は仲良くなっています。】

**p.72 4行目～p.73 3行目を読む**

ところが、ある日、大変なことが起こります。どんな問題か読んでみます。【でも、下におりていくと、問題が起こっていた。ホステルの家主の男性が、ママをどなりつけている。（中略）今週末までに金をそろえてくれ。できないんなら、出ていってもらうからな】

**表紙を見せる**

住んでいる家の家賃が払えずに追い出されそうになったアーヤ。いったいどうしたらいいのでしょうか？バレエのレッスンは続けることができるのでしょうか？

**5 『光にむかって ～サーロー節子ノーベル平和賞のスピーチ～』**

相手の国を攻撃する武器として、アーヤの町を破壊した爆弾より、もっと破壊力大きい「核兵器」を作る国もあります。

**表紙を見せる**

『光にむかって』はアイキャン I CAN という団体の、核兵器をなくそうと訴える運動をしてきた、サーロー節子さんが、ノーベル平和賞を受賞した時のスピーチを紹介した絵本です。なぜ核兵器をなくしたほうがよいと考えているのか、スピーチで述べている部分がありますので読んでみます。

**空が赤く燃え、焼け野原が描かれている場面 1 行目～原爆が落ちた日のサーローさんの顔を描いた場面 5 行目までを、読み聞かせ** 【わたしは被ばく者です。（中略）体が宙に浮いたように思いました。】

核兵器を持っている国は、なぜ作るのでしょうか？スピーチではこう書かれています。

**鳥の死骸の場面 1行目～6行目を、読み聞かせ 【アメリカ、ロシア、イギリス（中略）核兵器を持てば世界から尊敬され、他の国をしがえることができると錯覚しています。】**

**表紙を見せる**

核兵器について興味を持った人は、サーロー節子さんのスピーチを読んで考えてみてください。

## ●まとめ

**紹介した本の表紙を順に見せ、本の書名を言う**

今日は、「戦争」というテーマで本を紹介しました。

パレスチナ自治区で、土地をめぐる争いに巻き込まれている女性バスマが登場する『ママとマハ』、ウクライナの12歳の少女が書いた日記『ある日、戦争がはじまった』、ジャーナリスト山本美香さんが写真で戦争のことを伝える『これから戦場に向かいます』、踊ることが大好きな少女アーヤがバレリーナを目指す物語『シリアからきたバレリーナ』、核兵器のことを考えるヒントになる絵本『光にむかって』です。

今日紹介した本は、全部図書館にありますので、ぜひ読んでください。

**【その他の本】** こちらの本もおすすめです。また、ご自身で追加・差し替えをするなど工夫してみましょう。

- ・『アーニャは、きっと来る』 マイケル・モーパーゴ／作 佐藤見果夢／訳 評論社 2020年
- ・『いまは、ここがぼくたちの家 ～ウクライナから戦争を逃れてきた子ども～』  
バルバラ・ガヴリルク／文 マチエイ・シマノヴィチ／絵 田村和子／訳 彩流社 2024年
- ・「君たちはどう乗り越える？世界の対立に挑戦！」全3巻  
小林亮／監修 かもがわ出版 2023～2024年
- ・『杉原千畝 ～命のビザ～』 石崎洋司／文 山下和美／絵 講談社 2018年
- ・『パンプキン！ ～模擬原爆の夏～』 令丈ヒロ子／作 宮尾和孝／絵 講談社 2019年

(山梨県立図書館 2025.12)